

編集後記

編集委員としての仕事を始めて1年以上が経過した今、あらためて編集という仕事の重さと面白さを感じる。記事を作り上げていくという作業は日常業務にはない貴重な経験である。自分自身は、大学で初めて核融合と出会ったものの、その後少し離れたところでプラズマを研究してきた人間であるので、核融合研究に寄与しているという意識はまったく持ち合わせていないが、それでも核融合への思いを委員会や記事に感じるときなど、皆様がんばっておられるのだな、としみじみ思う。

大学や研究所の先生から見れば、それは私が高専という職場にいるからであって、何を言っておるのかと失笑とお叱りを受けるであろうが、幸か不幸か、高専は高等教育機関であるけれども、そういえない部分も多分にあって面白いところであることを述べておきたい。義務教育終了後に入学選抜筆記試験を経験しないまま学士号取得までできる(可能性がある)高専+専攻科という教育システムは、考え

の甘い学生を生むデメリット大との指摘もあるけれど、やはり日本では希有なものであって、ストレスのないユニークな学生を見つけることができる。ロボコン・プロコン・パテコンなどの各種コンテストへの出場は日常であるし、海外インターンシップにさっさと出かけて行って英語を学び、国際会議で流暢にプレゼンできる20歳そここの学生などもいて大学の先生に驚かれることもあるが、絶対的な専門知識量とはもかく、学生のモチベーションはそれなりに高い。問題は、意識の高い学生がすべてではないということであって、これは高専に限った問題ではないだろう。

何が言いたいのかというと、未来の研究者は確実に高専にいます、ということである。高専の目的のひとつは技術者教育であるが、技術者には研究者も含まれるというスタンスで人材育成を進めているので、卒業生が編入あるいは進学した先の大学・大学院、および採用いただいた各企業の皆様にはご理解とご協力をお願いしたい。苦言も歓迎です。(柴垣寛治)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	小川 雄一	副 会 長	斧 高一 二宮 博正	常務理事	西村 新 (総務委員長)
理 事	疇地 宏 (企画委員長) 上杉 喜彦 坂本 慶司 (広報委員長) 永津 雅章 山崎 耕造 (編集委員長)		石原 修 甲斐 俊也 笹尾眞實子 (プログラム委員長) 林 康明 (出版委員長) 米田 仁紀 中澤 一郎		伊藤 早苗 小森 彰夫 清水 克祐 (財務委員長) 堀池 寛 (広告委員長)
監 事	飯尾 俊二				

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター：山崎耕造(名大)

エディター：安藤晃(東北大)、坂本瑞樹(筑波大)、中村祐司(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)、佐々木浩一(北大)

編集委員：秋山毅志(核融合研)、伊藤剛仁(阪大)、今井 誠(京大)、大原 渡(山口大)、岡本 敦(東北大)、片山一成(九大)、菊池崇志(長岡技科大)、熊谷 晃(㈱ジェイ・イー・ティー)、古賀麻由子(阪大)、後藤拓也(核融合研)、小林進二(京大)、近藤正聡(東海大)、佐竹真介(核融合研)、佐藤正泰(原子力機構)、三瓶明希夫(京都市工大)、柴垣寛治(鈴鹿高専)、杉山貴彦(名大)、曾我之泰(金沢大)、田代真一(阪大)、田中将裕(核融合研)、中村龍史(原子力機構)、廣瀬貴規(原子力機構)、福山隆雄(愛媛大)、藤澤彰英(九大)、村中崇信(宇宙航空研究開発機構)、山家清之(新潟大)、吉沼幹朗(核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第88巻第3号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2012年(平成24年)3月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。